# 備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

（平成21年度事業）

| 事業の概要 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業開始年度 | | 平成１７年度 | | 根拠法令・例規等 | 備前市公有財産規則 | |
| 総合計画 | 大項目 | 基本目標 | 06 | 健全で自立したまちづくり | 問合先 | 担当課（室） | 財政課 |
| | 中項目 | 基本施策 | 01 | 簡素で効率的な行財政運営 | | 職・氏名 | 係長　芳田猛 |
| | 小項目 | 施　策 | 08 | 財政（財産管理関係） | | 電　話 | ０８６９－６４－１８１１ |
| 事務事業名 | | | 02 | 不動産登記事業 | このシート作成に要した時間 | | 2.5 時間 |

| 事業の目的 | |
|---|---|
| 対　象<br>（誰・何に対して） | 地権者、事業担当課の職員、市 |
| 目　的<br>（何のために） | 市所有地の登記事務について、一括処理することによる効率化を図る。 |
| 事業の意図する成果<br>（どのような状態にしたいのか） | 法定外公共物を国・県から市への所有権移転登記を完了させる。 |

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

| 事業の実績 | | | |
|---|---|---|---|
| 目的を達成するため実施した事業 | 細事業名 | 事業の説明 | 優先度 |
| | 書類作成業務 | 登記に必要な添付書類の作成 | ◎ |
| | 登記業務 | 法務局への申請手続き及び登記完了後の事務処理<br>・一般登記筆数　189<br>・法定外登記筆数　2<br>・Ｈ２１年度末の法定外登記完了筆数　1065（見込総筆総数5000） | ◎ |

| 事業費等 | | | 単位 | 平成19年度実績 | | 平成20年度実績 | | 平成21年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額 | 事業費 | 直接事業費 | 千円 | | | | | |
| | | 必要人員　人件費 | | 0.50人 | 3,867 | 0.19人 | 1,442 | 0.11人　874 |
| | | 事業費計 | | | 3,867 | | 1,442 | 874 |
| | 財源 | 国県支出金 | 千円 | | | | | |
| | | 受益者負担 | | | | | | |
| | | 繰入金 | | | | | | |
| | | 市債 | | | | | | |
| | | その他（　） | | | | | | |
| | | 一般財源 | | | 3,867 | | 1,442 | 874 |
| | 受益者負担比率 | | % | | 0.0% | | 0.0% | 0.0% |

| 結果指標名 | | 単位 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | 平成21年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 結果指標 | 登記総筆数 | 説明 | 登記を伴う土地の異動筆数 | | |
| | 結果指標量 | 筆 | 247 | 301 | 191 |
| | 対前年比 | % | － | 121.9% | 63.5% |
| | 活動コスト | 円 | 3,867,000 | 1,442,000 | 874,000 |
| | 単位当たりコスト | | 15,656 | 4,791 | 4,576 |

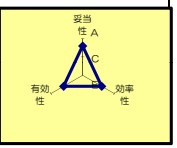
事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

| 事業の成果 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標名 | 年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度目標値 |
| 登記完了率 | 目標値（A） | 21 | 21 | 22 | 23 |
| | 実績値（B） | 20.6 | 21.3 | 21.3 | 到達目標値 |
| | 達成率（B/A） | 98.10% | 101.43% | 96.82% | 平成27年度 |
| 成果指標設定の考え方・式や説明 | | | | | |
| 平成13年度から3年間で国から払下げを受けた法定外公共物（旧備前市分）の所有権移転登記の進捗状況の指標とする。（法定外公共物登記総件数／登記見込総件数×100） | | | | | |

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

| 事務事業の評価 | | | |
|---|---|---|---|
| 妥当性の評価 | 市の関与の妥当性必要性 | ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている | 妥当性評価<br><A～E> |
| | | ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす | B |
| | | ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない | |
| | | ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている | |
| | | ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている | |
| | | ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である | |
| | | ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている | |
| | | ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている | |
| | | ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある | |
| | 市民ニーズ | ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い | |
| 効率性の評価 | コスト手段 | ☑ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している | 効率性評価<br><A～E> |
| | | ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある | C |
| | | ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある | |
| | | ☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい | |
| | | ☐ 受益者負担率は適正である | |
| | | ☐ 受益者負担率を見直す余地がある | |
| | | ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない | |
| | | ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある | |
| | | ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている | |
| 有効性の評価 | 目的達成度市民参画度 | ☐ 成果指標の設定は適切である | 有効性評価<br><A～E> |
| | | ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである | C |
| | | ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している | |
| | | ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている | |
| | | ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない | |
| | | ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい | |
| | | ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している | |
| | | ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している | |

| 進行年度（H22年度）の改革改善内容 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 状況 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
| | ○ | | | | | | |
| 説明 | 岡山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業の活用による臨時雇用職員を配置し、法定外公共物の所有権移転登記を行うとともに、合併に伴う承継登記も併せて実施する。 | | | | | | |

| 総合評価 | | |
|---|---|---|
| 法定外公共物及び承継登記については、膨大な事務量のため、異動のあったものから順次実施しているため、早急に登記するには専属職員を配置する必要がある。 | 評価区分<br><A～E> |  |
| | C | |

| 平成23年度の方向性 及び 取組目標 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 方向性 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
| | ○ | | | | | | |
| 取組目標 | 平成22年度からの継続事業として岡山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業の活用による臨時雇用職員を配置し、法定外公共物の所有権移転登記を行うとともに、合併に伴う承継登記も併せて実施する。 | | | | | | |